

組織目標評価報告書（平成23年度）

部局名：国際センター

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	
①-1 目標	自己評価 「国際舞台に誘う学問入門」「日本の戦争と平和」「世界の紛争と平和」「国際貢献論」「国際協力入門」「開発援助概論及び日本の援助の事例」「国際協力とグローバルイシュー」を開講し、学生の国際理解を促した。
1. 学生の国際的視野を広げるための教育を推進する。	
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
②研究領域	
②-1 目標	自己評価
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
③センター業務領域	
③-1 目標	自己評価 1. 国際交流会館の新設に伴い、平成23年4月から英語能力の高い管理人を含む2名を時間交代制で配置し、入居者の利便性を図った。また、交流ラウンジでは、主として国際交流関係事業開催のために使用可能としており、8月に「もう一つのハーバード白熱教室」と題し、ハーバード大学教授オルセン博士を招きシンポジウムを開催、本学学生や市内の高校生等約130名が参加した。 2. 「国際戦略ビジョン21」の策定により、平成23年度においては、東アジア地域の拠点整備を推進、中国長春及び瀋陽事務所に加え、広島大学北京研究センター内に本学北京事務所開設するための準備を行い、平成24年4月開所予定である。優秀な学生確保のため、引き続き世界各地の拠点整備を計画中である。 5月にカナダ、6月に中国、10月にベトナム、11月にモンゴルでの海外留学フェアに参加、海外広報活動を行った。ベトナムでの留学フェアにおいては、本学教員と共にベトナム事務所職員も参加して、現地高校を訪問、広報及び情報収集を行った。 また、サウジアラビア政府派遣留学生の獲得に向け、サウジアラビア大使館との連携を図り、平成24年度には2名の学生を受け入れることを決定した。 3. カナダでの留学フェア(NAFSA会議)で欧米の大学との交流を深め、EPOK派遣校としてカリフォルニア州立大学モントレイベイ校との協定を締結、平成23年度6名の学生を派遣した。同様にフラートン校とも交流を再開することし準備を進めている。留学説明会や留学相談を充実させた結果、過去最大となる42名のEPOK応募者があった。さらに、従来の Guam、アデレードでの語学研修に加え、希望者数の増加を受け、夏期にイギリス、春期にアメリカでの語学研修を実施した。また、日本学生支援機構(JASSO)の留学生交流支援制度(ショートステイ・ショートビジット)に国際センターから応募、採択され、タイとの交流プログラムを実施した。 4. 国際センター留学生相談室において、メーリングリストを利用し、学部・研究科の留学生相談・指導業務協力教員に留学生関係情報の提供を10回行い、必要な情報の共有に努めた。また、留学生受入サポート体制の強化を図るため11月に非常勤職員3名を配置し、平成24年4月からの本格稼働に向け準備を進めている。 5. 4月に同窓会本部役員を決定し、3回にわたり設立準備会を開催、会則案の策定等設立記念式典の準備作業等を支援、10月には参加者150名の第1回留学生同窓会を開催した。上海支部設立のため、3月に本学教員及び国際センター職員を現地に派遣し具体化を検討した。
1. 国際交流活動の推進 平成23年3月に新設した国際交流会館等を活用して、外国人研究者の支援策や外国人留学生と日本人学生との交流活動等を充実させ、海外の大学との学術交流の推進及び日本人学生の国際感覚の醸成や視野の拡大を図る。	
2. 優秀な留学生の受入れを推進する。 優秀な留学生の確保に向け、海外事務所や協定校ネットワークの活用及び留学フェアなどへの積極的な参加を通じて海外での広報活動を強化する。	
3. 本学学生の海外派遣を推進する。 EPOK協定校の拡大を図るとともに学内の広報活動を強化する。 海外フィールド研修など短期の交流プログラムを充実させる。	
4. 学部・研究科の留学生相談・指導業務協力教員と国際センター教員の連携協力のもとに留学生相談室を軸とした一元的な留学生支援活動を実施する。 5. 卒業留学生のネットワーク化を進め、同窓会の立ち上げを支援する。	
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
④社会貢献(診療を含む)領域	
④-1 目標	自己評価 1. 12月に外務省外交講座「国連と外交」を実施するにあたり、広く地域に公開して開催、学生や教職員、市民約90名の参加を得た。 2. 1月にサウジアラビアのアブドゥルアジーズ・トルキスターニ駐日大使による特別講演会「サウジアラビアと日本」を実施、学生や教職員、市民約200人参加、同国について理解を深めた。 3. 国際協力機構(JICA)の団体研修をガーナから夏期12名の研修員受入に加え、新規プログラムとして冬期にアフリカ地域から12名の研修員を受け入れ、本学附属学校及び地域の小学校での授業実習を行い、国際理解を深める機会を提供した。 4. 留学生と地域住民との交流を行うため、小学校及び高校訪問や週末型ホームステイ、NGO会員との交流会を企画実施した。
1. 国際交流・国際貢献に関する講演等を公開することにより、学内のみならず地域社会に対して広く国際理解の推進を図る。	
④-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
【総括記述欄】	
<p>本年度に岡山大学の国際化に関する方針が「国際戦略ビジョン21」で明確に示された。それを受け、本センターでは、国際化の一層の推進を図るためのセンター組織の充実を図り、事務組織と教員組織の体制を整備した。また、海外事務所等の海外拠点の活用、優秀な留学生確保のための様々な広報活動、留学生同窓会の設立及び特別講演会等の開催による地域への国際化推進を実施する等、様々な取組を積極的に行い、本年度の目標に沿った国際化の一層の推進を図った。来年度以降、「国際戦略ビジョン21」の実現を図っていくために、本年度に実施した諸事業を継続的により発展させていく必要がある。</p> <p>また、本学のグローバル人材育成事業を推進するため、全学的な協力がより一層必要であると共に、国際部門の組織体制の更なる充実・改善が必要となることを見込まれるため、それらの実現に向けた検討を行う。</p>	